

ひろリンピック大成功！

昨日、9月よりスマイル班活動で練習してきたひろリンピックを開催しました。開会式も終わり、いよいよ競技開始という時に、「絶対についてきてね」と1年生に声をかける6年生。今から、8種目を場所を変え、スマイル班でチャレンジしていくのです。うなづき、離れないでしっかりついて行く1年生。なんとも微笑ましい光景を目の当たりにしました。私は、このひろリンピックを通して、たくさんの感動をもらいました。

長縄・ボトル釣り・障害物競走・玉入れなど練習とは違い、みんな真剣そのもの。悪戦苦闘するなかにも、「いいよ。いいよ。がんばれ」の励ましの声がとびかいます。子どもたちは、競技をする中で自然と助け合っていたのです。特に徒競走では、走り終わった高学年が下級生に、がんばれ！がんばれの大声援。大いに盛り上がりました。タイフーンでは、足をけがして走れない2年生



全員リレーのスタートは1年生

車椅子を引っ張って力走



を車椅子にのせて爆走！なんと1位。喜びが爆発しました。「みんなで作るんだ。」と考えるようになった一幕でした。いよいよクライマックス。スマイル班全員リレー。全校生が見守る中、なかなかスタートがきれません。6チーム対抗で、スマイル班全員22人がバトンをつなぐのです。誰にパスするかわからないスタートの1年生に最後まで指示をする6年生。誰一人手を抜かず全員が持てる力を発揮して走りました。どんなに離されても全力で走る姿に感動です。ふと、周りを見ると、走っていない他の班の子どもたちが、班旗を振って応援しているではありませんか。全員が

バトンをつなぐことができると、拍手喝采です。私は、コロナのために運動会ができず残念で仕方ありませんでした。でも、子どもたちは、このひろリンピックを通して、仲間と助け合う、人を思いやる心を学びました。そして、何よりもスマイル班の仲間との絆を深めることができました。最後に、みんなでジャンピングバンザイをして健闘を讃えあいました。

10月是人権月間、恕の心で

さて、10月は、人権月間です。人権集会や授業を通して、思いやりの心を育んでいきます。思いやりとは、

相手の立場に立って考えることができることです。差別・偏見・いじめなど考えるときに私は「恕」という言葉を思い出します。孔子は論語の中で、「世の中で人が生きていくなかで最も大切にしなければならない言葉は、恕。自分がされていやなことを人にしてはならない。人からされてうれしいことをしてあげなさい。」と説いています。恕とは、相手への優しさ・思いやりの心です。温かい心で人に接する。明るい笑顔で人に接する。心から優しい言葉を人にかける。「ありがとう」など感謝の言葉が学校中にあふれるように取り組んでいきます。

校長 古谷昭文



ジャンピングバンザイをする子どもたち